

令和6年度小平市立鈴木小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかねば後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

- 全体の正答率は、全国平均より2.7ポイント、都平均より5ポイント下回っている。
- 観点別に見ると、「思考・判断・表現」の正答率は、全国平均とほぼ同水準だが、「知識・技能」の正答率は、全国平均を5ポイント下回っている。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が低く、特に主語と述語の関係を捉える問題の正答率が低かった。

課題

- 分析結果から、文章で使われる語句や漢字の理解が不十分であり、文の構造や文法の知識があいまいで、正しく活用することが課題である。
- 最後の2問の無回答率が25%以上であった。文章の内容を読み取って理解するのに時間がかかったことや、記述式の設問に答えられなかったと考えられる。文章を読み取る力や自分の考えや感想をまとめて表現する力を一層育む必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- 日常的に既習の漢字をできるだけ使おうとする意識をもたせる。語彙を増やすために、読書を推奨し、様々なジャンルの文章に触れる。
- 読み取るための課題を明示するなどして授業のねらいを把握させ、自分の考えをもたせるとともに、自分の考えを深めたり、広げたりするための対話的な学習を意図的に導入する。
- 教育活動全体の中で、自分の思いや考えを書いて表現する機会をつくっていく。

【算数】

状況の分析

- 全体の平均正答率は、全国の平均を2.6ポイント上回っており、都の平均を約2ポイントほど下回っている。
- 観点別に見ると「知識・技能」は全国の平均を上回っている。一方「思考・判断・表現」は全国の平均とほぼ同水準であるが、都の平均を約5ポイント下回っている。
- 「数と計算」の正答率が低く、特に小数のわり算の正答率が低かった。一方、「図形」の正答率は全国および都の平均を上回っていた。

課題

- 「数と計算」の領域において、問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことや、計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察することに課題がある。
- 全ての領域において、求め方や答えの理由を、言葉や数を用いて記述することに課題がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- 計算力を向上させるために、日常的に学習者用端末を用いたドリルを活用したり、反復練習を行ったりする。
- 立式の際は、問題場面の数量関係を捉えるために、常に図（特に数直線）の考え方を取り上げ、自分でかけるようにしていく。
- 答えの求め方や考えの理由を、ペアやトリオなどで伝える機会を多く設ける。また、他者と学ぶ価値を伝えていき、新たな見方・考え方をもつことができるようにする。

【質問紙】

状況の分析

- 全体的に「学校での学習」、「自尊感情」の領域に関して肯定的な回答をしている児童が全国平均と都の平均をやや下回っているものが多い。
- 「授業で、ICT 機器をどの程度使用しましたか」という質問に94%の児童が肯定的な回答であり、全国・都の平均より30ポイント以上も高い。また、ICT 機器の活用に関して「友達と考えを共有したり、比べたりする」ことが有用であると回答している児童が多い。
- 「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる」項目に関して肯定的意見が全国・都の平均を上回った。

課題

- 「自分には、よいところがある」と「人が困っているときに進んで助けている」という、関する二つの質問において、肯定的な回答が全国・都の平均を下回っており、自己肯定感や対人面での課題がみられる。
- ICT 機器を活用して、考えを共有することが有用であると回答している児童が多い一方、実際に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付くことができると考えている児童が少ない。
- 日々の授業にしっかり取り組む児童は多いが、主体的に学ぶ意欲や他者との対話、協働的な活動が不足している。

学校で取り組む具体的な改善策

- 自己肯定感を高め、よりよい人間関係の構築に努めていく。そのために、対話と協働をもとにして、主体的に特別活動に取り組めるようにしていく。また、よりよい人間関係を築くために、挨拶・言葉遣い・礼儀の日常化に取り組んでいく。
- 授業での「対話」を充実させ、学ぶ楽しさと、より深い学びの実現に向け、以下の3つの授業改善に取り組んでいく。①伝え合う力（対話力）の向上と協働的な学びの充実。②習熟度別、少人数指導による個に応じたきめ細かな指導の充実。③児童の実態に即した指導計画の立案と実施、評価、改善サイクルの確立。